

福島市における3歳児健康診査

大越 磨瑞子

桜水さかい眼科 視能訓練士

福島市で視能訓練士をしております大越と申します。平成15年より3歳児健診に携わり現在に至っています。健診の重要性、難しさを感じつつ色々な子供たちに会えることを楽しみながら従事しています。現在、福島市の3歳児健診は、月に5,6回実施しており、福島市と伊達市の6施設10名の視能訓練士が交代で視覚検査を担当しています。昨年4月に屈折検査で用いるレチノマックスをスポットビジョンスクリーナー(SVS)に切り替え、新体制で健診を行っておりますのでその経緯をご紹介します。

平成9年に健診の管轄が県から市に移管され、その当初、視覚検査は家庭での視力検査のみとし、会場では実施しておりませんでした。平成12年に福島県立医科大学附属病院からレチノマックスをお借りすることとなり、これに伴って家庭での視力検査及び問診項目等で問題のある児に対して、健診会場で屈折検査とランドルト環による視力検査を1名の視能訓練士が担当することになりました。平成13年には、視能訓練士2名に増員し受健児全員へレチノマックスでの屈折検査を実施するようになりました。平成15年には福島市の予算でレチノマックスを購入し、以後17年間同様の方法にて健診を行っております。しかしながら、だんだんと健診に従事可能な視能訓練士の確保が難しくなり、令和2年にSVSを購入すると同時に視能訓練士1人体制に変更となり、現在、SVSの測定は看護師が行い、視能訓練士は測定結果の判定と視力、眼位などの検査及び保護者への説明を

担当しています。今回、SVSを導入したことによる変化について看護師、視能訓練士それぞれに、アンケートを実施し回答をまとめましたので報告いたします(別添)。

視能訓練士1人体制になったことで最も多かった回答として視能訓練士からは、測定値の判断に困った時1人では判断することが不安であるということでした。基準値(遠視:2.5D、近視:1.25D、乱視:1.75D、不同視:1D)が決まっており、基準値外となった際は2回測定して判断します。明らかな異常値を認める際は精密検査とします。以前使用していたレチノマックスでは異常としていた数値がSVSでは正常と判断されることも多く、精検にすべきかどうか迷う際や、精検を見逃しているのではないかと悩む際に、他の視能訓練士に相談・情報交換したくてもできないことがあります。また、受健児の視力検査が続くとSVSが終わった児へ結果を伝えるために待たせてしまうことがあります。時間が限られている中で検査する以上、悩んでいる暇はなく自信をもって判断しお話しすべきと考えています。

また、看護師からは、視能訓練士と検査するうち自分なりに検査の数値を理解し、「この数値なら測り直しかな」という見通しをもって検査できるようになってきたという回答がありました。私も看護師、保健師に屈折や眼位の異常について、以前より理解してもらえるようになったと実感しています。

実は、令和2年度末に視能訓練士の参加が難

しければ看護師と保健師だけで検査を行ってはどうかという意見が市の方から挙がっていたようです。これに対して看護師より、保護者からの質問に対して対応に困る、専門的な判断が難しいという意見があり、視能訓練士の参加が継続となりました。3歳児健診には保健師、看護師、歯科衛生士、他の専門職の方々が参加し、それぞれの分野で各自の仕事をしています。眼科領域に関しては私たち視能訓練士が携わることで健診をより有意義なものにできると考えていますので、視能訓練士による視覚検査を継続できるようになり良かったと思っています。

SVSを導入した時期と新型コロナウイルス感

染症拡大が重なり、1回の健診での受健児数を減らし、検査を早く終わらせるようになりました。以前は、発達の遅れや泣いて検査できない児を3~6ヶ月後に再検査としていましたが、現在はそういった児も精検としており、本来の3歳児健診の意義に沿っているのだろうか?という思いも抱きつつ検査に向かっています。視力、眼位の確認などの時間の確保は現況では難しいところではありますが、健診の大切さに自覚を持ち、できるだけ精検児を見逃さず健診の精度向上のために励みたいと思います。

【SVSを導入したことによる変化について アンケート回答・対応策】

保健師・看護師より

- ・ SVSの操作に関して最初は慣れるのに大変だったが、瞬時に測れるようになった。
- ・ 泣いたり騒いだりする児のSVS測定には時間がかかる。

【対応策】一度場を離れて後からもう一度検査させてもらっています。

視能訓練士より

- ・ 測定結果を判定するにあたり、SVSを導入したことで測定できない児がほとんどいなくなり測定時間も短くなり効率も上がった。
- ・ 近視が強くなるのが減り、近視疑いでの要精検も減少した。
- ・ 乱視が強くなるのがあり、数回測定しても結果がばらつくときがある。

【対応策】ばらつく測定結果に対し可能ならばレチノマックスを併用したいところですが、短時間での検査を必要とされており、今のところ不可能な状況です。

- ・ 頭位によって眼位の異常として検出されることもあった。

【対応策】保護者に頭を後ろから支えてもらうことで修正可能です。

- ・ 瞳孔径に左右され、固視が良好でもなかなか測定できないがあった。

【対応策】瞳孔径3mm以下は測定不能となることがあり、部屋の明るさに注意が必要です。